

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	・日常に必要な国語(漢字・語彙)について正確に理解し、適切に使う能力。 ・目的に応じて、文章や図表などを結び付けて必要な情報を見付け、自他の思考を適切に表現したり理解したりする力。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 令和6年度72% 令和7年度71% 令和8年度68% ・問題文にある文章から必要な情報を抜き出したり引用したりして、自分の考えが伝わるように工夫して書く出題の正答率が一番低く36%。資料を適切に読み取ったり、そこから自分の考えを形成したりすることに苦手がある。 ・次に、既習の漢字を書く設問での正答率が低く、既習漢字を正しく使うことに苦手がある。 ・無回答が多かった自分の経験と結び付けてまとめを書く出題は、正答率は高く73%であり、個人差が見られる。	・既習漢字や教材文中の語句を用いた言葉集めをしたり、既習漢字を適切に使ったりできるよう、くり返し意識させる。 ・図書室の活用、辞書の活用、教科書巻末「言葉の宝箱」の活用など、様々な語彙に触れる機会をつくる。 ・日常的に日記や短文、学習の振り返りを書いたり伝えたりする活動を行い、自分の考えを形成する機会を十分にとる。 ・目的に応じて、文章や図表などから必要な情報を見付けさせ、書く際の型を視覚的に与え、児童が書いたり伝えたりする経験を積ませる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	・様々な資料や調査活動を通して、社会的事象に関する情報を適切に収集し、整理・分析してまとめる技能。 ・社会的事象の特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の課題解決に向けて、社会への関わり方を選択・判断し、適切に表現する力。 ・よりよい社会の実現を目指して主体的に問題解決に取り組もうとする態度と、地域社会及び国際社会の一員としての自覚。	・資料が示す情報を読み取り、要点を捉えることに課題がある。 ・社会的事象を自分事として捉え、課題意識をもって主体的に調べる力に課題がある。 ・社会的事象と地域や自分たちの生活との関連を考え、課題を見いだすことが十分ではない。 ・自分の考えを根拠を基に文章で記述したり、説明したり、話し合ったりする力の育成が必要である。 ・47 都道府県の名称と位置の確実な定着が課題である。	・日常の授業において、教科書や地図帳、各種資料を活用する機会を計画的に設定し、資料活用能力及び社会的な見方・考え方の育成を図る。 ・都道府県の名称や位置について理解を深められるよう、掲示物等を活用した学習環境を整備し、継続的に確認する機会を設ける。 ・ペアやグループでの対話的な学習活動を充実させ、他者の考えを基に自らの考えを深めたり広げたりできるようにする。 ・社会的事象と生活との関連を考える学習場面を意図的に設定し、課題を見いだし、多面的・多角的に考察したことを表現する力の育成を図る。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算数	・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解、日常の事象を数理的に処理する技能。 ・日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率令和6年76% 令和7年70% 令和8年75% ・場面に合った式を立てたり、答えを導いたりすることができない(無回答)割合が都や全国平均よりも高い。 ・適切なグラフや図を選ぶ設問の	・答えを求めるだけではなく、式の説明ができるように、立式の根拠を大切にさせる。そのために、図や数直線を用いて立式の根拠を説明する活動を重視する。 ・問題解決の過程で、見通しをもちながら筋道を立てて考えたり、既習事項を活用した手順を分かりやすく説明したりできるようにする。発表やノ

令和8年度 授業改善推進プラン

質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力。	正答率が低く、正確にグラフや図を読みとることや、文章から得た情報を基に図やグラフにすることが苦手である。 ・問題から必要な情報を読み取り、自身で取捨選択する力が低い。	ート、振り返りシートの内容から学習状況を評価し、友達の説明のよさを見付けて自分の考えや説明を振り返らせる。また、その評価を基に個別に助言し、自ら学習を改善できるようにする。
---	--	--

理 科	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・理科の見方・考え方を働かせた問題解決の力を育てる。	【問い】 ・自分の気付きから、学習問題をつくり出すことが難しい。 【予想】 ・事象や生活経験を予想の根拠として結び付けて考えることが難しい。 【計画】 ・仮説を検証するための実験計画を自力で立てることに苦労している。 【実験・考察】 ・実験の結果を適切にまとめる力に個人差がある。 ・実験の結果を公平・客観的に評価できず、仮説に正対した考察をすることに課題がある。 ・正しい用語を適切に使用することに課題がある。 ・学習した内容を生活に生かすことについて考えたり、実行したりする力が弱い。	【予想】 ・児童同士の考えを積極的に交流させ、どのように根拠をもてばよいのか皆で共有し、考えを深めさせる。その際、付箋紙や名前マグネット、ICT機器を用いて自分や友達の考えを視覚化させる。 【計画】 ・実験や観察の計画を立てるにあたり、適切にノートにまとめることを指導する。(必要な実験器具、手順、そろえる条件、見通し) 【考察】 ・実験の後、考察を記入する前に実験の結果(数値等の事実)をどのように評価するのか、クラス内で整理・検討を行う。 ・思考する力を育てるだけでなく、基本的な語句や事象のきまりについて単元の終末におさえることによって、さらなる知識の定着を図る。

生 活	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、関わりに気付き、生活上必要な習慣や技能。 ・身近な人々や社会、自然を自分との関わりで捉え、体験活動等を通して、自分自身や自分の生活について考えたり、表現したりする力。	・生活科の活動は、遊び的要素が多く含まれる学習のため、子供の学びにどう繋げるのか明確にする必要がある。 ・自分の気付きを交流し、新たな気付きを生み出したり、次の活動に繋げたりする力が乏しい。 ・活動を通して、考えたことを表現する際、どのようなことを書けばいいのか困る児童がいる。 ・自然事象に接する機会が少ない。	・導入や活動の場を工夫し、児童の思いや願いに沿った学習計画を立てる。 ・体験活動を充実させるとともに、活動から得た気付きをもとに考える時間を設け、学習活動が体験のみで終わらないようにする。 ・学習対象と繰り返し関わりをもたせ、活動に対して振り返りを確実に行之、次の学びに繋げていく。また、振り返りの視点を提示することで、考えを表現しやすくする。 ・観察する視点を焦点化し、変化に気付きやすくする。 ・中庭のピオトープや、芝公園を活用し、自然に触れ合う機会をつくる。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽と豊かにかかわることができる力。他者と協働しながら表現したり、音楽の良さを見出したりする力。	・表現では他者と協働して学習活動を進めることに課題がある。 ・鑑賞では感じたことを適切な言葉を使って表現することに課題がある。また、感じ取ったことと聴き取ったことの関連を図って鑑賞することに課題がある。	・児童の実態に合わせ課題を選んで練習したり、個別指導をしたりして、一人一人が自分の思いをもったうえで協働して音楽を表現できるようにする。 ・感じ取ったことをどのように言葉で表現するか、ヒントの言葉を掲示する。また聴き取ったことと感じ取ったことの関連を図ることができるような発問・追い発問を繰り返すことで、音楽の聴き方に気付けるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	・対象を造形的に捉える力を育て、材料や用具を工夫して創造的に表現する力。 ・作品のよさや美しさ、表現方法について考え感じ方を深める。 ・つくる喜びを味わいながら感性を育み、豊かな生活を創造しようとする態度。	・児童は表現活動に意欲的だが、鑑賞では友達の作品のよさに気づく力が弱く、他者の視点を受け入れる態度に課題がある。 ・表現活動と片付けに時間がかかってしまい、鑑賞や振り返りの時間が短くなってしまうのが課題である。	・鑑賞する態度を育てるために、作品交流の時間を設け、ICT を効果的に活用し、児童同士でよさを伝え合う活動を取り入れる。 ・授業での制作の見通しを持たせることで時間管理を促し、片付けを含めた活動全体の流れを意識させる。 ・今年度から導入しているスプレッドシートでの振り返りの入力を習慣化していき、鑑賞活動に生かす。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	・日常生活に必要な知識・技能を身に付ける。 ・自分や家族の生活を見つめ、課題を見だし、よりよい方法を考えたり工夫したりして、実践につなげる力を育てる。 ・家族の一員として生活をよりよくしようと工夫し、身に付けたことを家庭や日常生活で生かそうとする態度を育てる。	・学習した知識や技能を身に付けることはできても、自分の取組を振り返り、課題を捉えて次の学習に生かす力が十分に育っていない。 ・製作や実習では、教師に方法や正解を求める姿が見られ、自分でよりよい方法を考え、選択・工夫することに課題がある。	・学習のめあてや評価の観点を児童と共有し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・製作や実習の途中で、自分の取組を振り返る機会を設定し、「成果」「課題」「改善方法」を考えながら学習を進められるようにする。 ・ICT 等を活用して互いの考えや製作物を共有し、友達の工夫や複数の事例と自分の取組を比較する場を設け、自分の課題や次の目標を捉え直せるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・運動の特性や健康について理解し、自己の課題に応じて適切に選択・実践する力の育成。 ・友達と対話や協働を通して互いのよさを認め合いながら学びを深める態度の育成。 ・学習を振り返り、課題を明確にして次の学習へ生かすなど、運動や健康づくりに親しんだり生かそうとしたりする資質能力の育成。	・自分の課題を把握しても、課題に応じた運動方法や健康的な生活を選択したり工夫したりすることが十分でない。 ・友達との関わりの中で助言を生かし、自分の学習改善につなげたり、保健で学んだ内容を日常生活と関連付けて考えたりすることに課題が見られる。 ・学習の振り返りを次時の目標や学習改善につなげる意識が十分でなく、学びの連続性が弱い。	・「課題の把握⇒見通し⇒実践⇒対話⇒振り返り⇒次時への改善」の学びのサイクルを授業改善の基本とし、児童が主体的に課題解決に取り組めるようにする。 ・体育では、ICTによる動きの可視化や協働的な学習を保健では、体験活動や話し合い、生活との関連を意識した学習を充実させ、学びを深める。 ・評価基準を児童と共有するとともに、教職員間で授業実践や評価を共有し、継続的な授業改善につなげる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・外国語の音声や表現に慣れ親しみ、その言語表現を使ってやり取りをしたり発表したりする力。 ・相手意識をもち、目的や場面、状況に応じて、適切な言語表現をつかったり、表情や動作等のコミュニケーションスキルを活用したりする力。 ・相手の気持ちを知ることや自分の考えを伝えることを楽しみ、主体的にコミュニケーションをとろうとする態度の育成。	・やり取りの中で声の抑揚やジェスチャー等を付けながら、よりよく相手に伝わるように表現しようとする意欲が乏しい。 ・英単語や文章を4線に正しく書くことが難しい。	・音声や表現に慣れ親しむために、メトロラーニングを活用し、リズムや発音に楽しみながら活動する。 ・身近な事柄や日常生活に活かせる場面設定や、相手や目的を意識することができるようなペア、グループでの言語活動を設定する。 ・高学年で4線を使って正しく単語や文章が書けるようになるために、低学年では、音声と文字に親しみ、中学年では、4線に正しくアルファベットの太文字・小文字を書けるよう段階的に指導していく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	・道徳的諸価値について理解する。 ・物事を多面的・多角的に考える。 ・道徳的価値を基に、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める。	・教材の内容を児童が自分事として捉えられるようにする必要がある。 ・自分とは異なる考えに耳を傾けることはできるが、その考えを踏まえて自己の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。 ・学習したことを生活の中で実践できるようにしていく必要がある。	・役割演技など、疑似体験的な表現活動を取り入れることで、教材の内容を自分事として捉え、道徳的諸価値の理解を深められるようにする。 ・葛藤場面を話し合う活動に設定し、自分の考えをペアやグループ、全体で共有したり議論したりすることで、多様な感じ方や考え方に触れさせる。 ・学習を通して、自分の生活について振り返る時間を確保する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	・ 集団の一員としてのより良い生活や人間関係を主体的に築こうとする。 ・ 自己の生き方についての考えを深め、自己を活かそうとする。	・ 挨拶や時間を守る等の日常生活の中で必要なマナーやルールを主体的に守り、実行しようとする意識を身に付けて行く必要がある。 ・ 高学年については下級生を大切にし、より良い関係を築こうとする態度が育ってきている。集団の一員として、志をもって自己を生かそうとする気持ちを育てる必要がある。	・ 挨拶運動やふれあい月間を活用し、マナーやルールについての意識や態度を向上させる。 ・ 様々な行事を通して、上級生の姿を見せながらどのような自分になりたいか考えさせると共に、キャリアパスポートを活用しアウトプットさせることでその気持ちをより強めることができるようにする。 ・ 1～4年生の遠足を通して、中学年にも主体的に行事に関わる意識を育成する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	・ 生活している地域に関わる探求的な学習の過程で、自ら問いを見つけ取り組む。 ・ 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用して収集した情報を整理・分析・思考し、自分の考えをまとめ、判断し表現しようとする。 ・ 探求的な学習に取り組む事で、学んだことを主体的に生活に生かそうとする。	・ 課題に関して、自分ならどうするか学習をプランニングする力を育てる必要がある。 ・ 情報を読み取り、分析したり判断したりする力を高める必要がある。 ・ 自分で考えたことを分かりやすくアウトプットする技術の習得が必要である。 ・ 課題に関して自分事として捉え、どう関わっていくのか考えられるようにする必要がある。	・ 日常生活や既習事項、体験活動などを通して課題意識をもち、自らの学びを計画、調整する。 ・ 学習内容や目的に合わせて、必要な情報を収集し、情報や考えを整理したり、分析や思考をしたりして課題を解決しそのことをまとめ、表現できるようにする。 ・ 自分の住む地域や伝統文化について学ぶ学習を積極的に取り入れ、地域の特徴や良さに気付き、継承していくことの大切さに気付かせるようにする。 ・ キャリア教育とも関連させ、学んだことを今後どのように自分の生活に生かしていくのか、考え表現する時間を設ける。